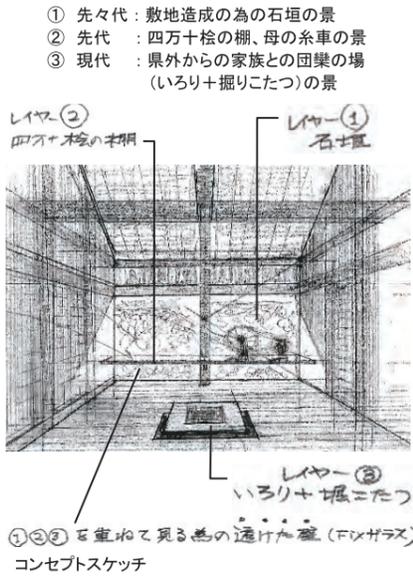


# 一般社団法人 住宅リフォーム推進協議会会長賞【作品部門】

リフォーム前後の写真



After



Before

家族みんなの故郷

対岸から家を見る  
上: 改修後  
下: 昭和38年当時



## リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

四万十の舎は、四万十川上流、過疎化の進む集落にあり、約130年前、山の斜面を切り開いて建てた木造平屋の民家である。この家で育った7人兄妹はそれぞれ独立し、現在は両親を見送った次男が一人で暮らす。建物は全体の老朽化が激しく倒壊寸前の状態であり、家主自らが行った柱脚部の差し替えがなければ維持できていなかった。この現状を見かねて、離れて暮らす兄妹・親戚が一致協力し、この実家を残す計画がされたのであった。計画では、耐久性・耐震性を基本に、『家族みんな』の思い出の

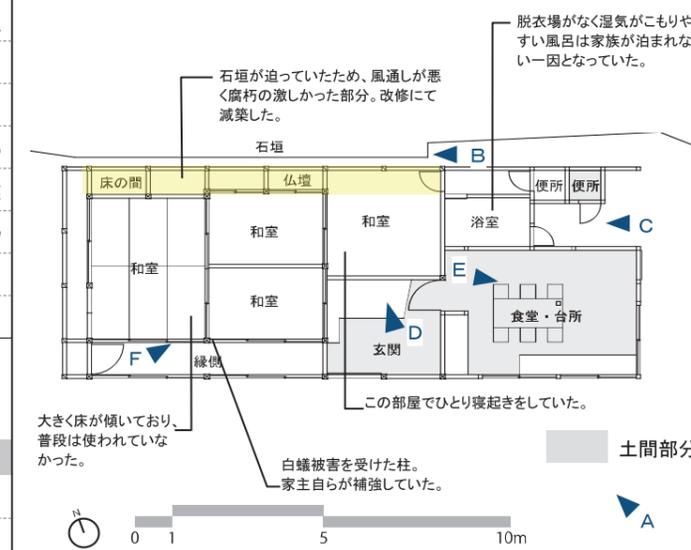
場となることとした。具体的には、「先々代・先代・現代」の三世代の生活の痕跡(先々代:石垣/先代:糸車等/現代:いろいろ+掘りこたつ)を視覚的に重ねて見せることで、思い出の場づくりを実現した。家族12人分の寝具収納や、寝泊まりができる空間も整えている。今回のリフォームが、全国のこういった環境に生きる『多くのみんな』の希望の先例ともなることを望んでいる。リフォーム後、施主からは「兄妹で100年先までこの家を大事に繋いで守る」という言葉をいただいた。

性能向上の特性  
耐震性能、耐久性能、温熱性能、防犯性能、室内空気環境

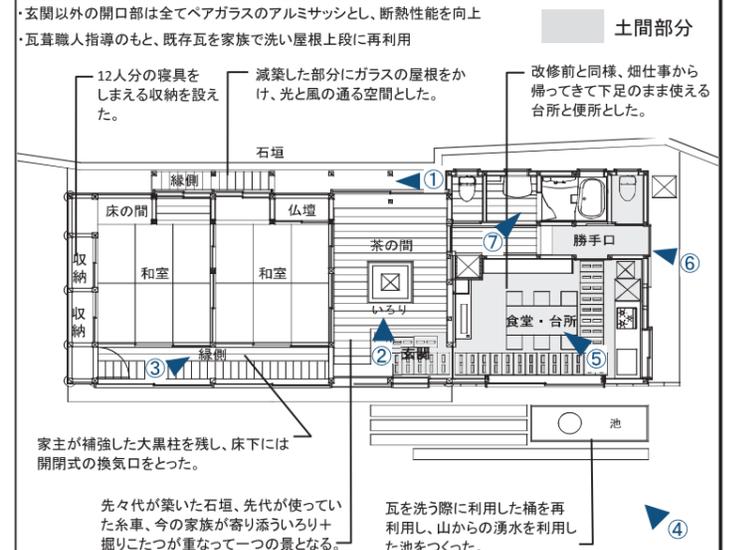
特に配慮した事項  
離れて暮らす家族みんなの家として、過去の記憶を再構成した。

所在地	高知県四万十市	新築竣工年	不明	築後年数	約130年	施工期間	120日間
該当工事床面積	82.61㎡	総工事床面積	82.61㎡	該当部分工事費	1500万円	総工事費	1500万円
居住者構成	65歳以上:1人 / 15~64歳:0人 / 15歳未満:0人						

## リフォーム前の平面図



## リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■エントリ/ □ソリヨ共用部分/ □その他

## 講評

高知県四万十川上流の過疎化が進む集落にある「故郷の実家」のリフォームである。施主兄妹の祖父母の代に、山の斜面を切り開いて建てた平家の木造住宅で、両親を見送った後、7人兄妹の次男が一人で暮らしているが、老朽化が激しく、床は傾き、安全性の問題も出ていた。離れて暮らす兄妹の「何とかできないか」という熱い思いから、このリフォームは始まっている。

設計者は、家に積み重なった生活の痕跡をひとつずつ拾い上げることで、その想いに応えようとした。まず、生まれ変わったこの家を特徴づけているのが、建物の北側一面に控える石垣である。この石垣はおよそ130年前の敷地造成時に設けられたものだが、その後の増築で半ば埋もれてしまっていた。今回のリフォームでは、湿気がこもり腐朽の激しかったこの増築部分を取り除き、ガラスの屋根をかけることで、風や光の通り道とするとともに、再び日の目を見た石垣を生活の景のなかに大きく取り込んだ。

また、天井を外し、いろりを蘇らせた茶の間は、この石垣と対峙する空間でもあり、この部屋には兄妹の母が使った糸車も飾られている。一枚一枚に地元「蕨岡」の刻印が入った屋根瓦は、瓦職人による指導のもと、家族と一緒に洗い、再利用した。なお、重量軽減のため一部

は金属板葺きとしている。

この他にも、縁側の一部を掘り込んで床下換気口を設けたり、外壁の一部に金属板葺きの職人技を取り込んだり、瓦焼で発生する炉内用部材を土間の床でリユースしているなど、隅々まで行き届いた設計が施されている。

各種の性能向上も、しっかりと図られている。工事を担当した高知市の施工会社は、設計者が「勝負作は必ず相談する」と信頼を寄せる相手である。何より耐震補強には費用をかけ、Is値1.2を確保した。冬でも暖かく、風呂などの水回りも快適になったため、兄妹の子どもたちも喜んで寝泊まりできるようになった。親族みんなで集まれるよう、収納には12人分の寝具が用意されているが、多いときには35人もが顔を合わせたそうである。今回のリフォームについて、施主は「上等」と語る。

すべての「故郷の実家」が簡単に真似できるものではないが、愛情にあふれた幸せなリフォームである。費用を出し合い、家を守りたいと願った施主家族の想いと、それに丁寧に応えた設計者・施工者の質の高い仕事は、一般社団法人住宅リフォーム推進協議会会長賞に相応しいものとして、高く評価される。